

「B & P (Borderless & Priceless)」地域で始めてます！

神奈川県 厚木市

若年性認知症カフェ「そらとうみとたいようと」の会プロジェクト

プロジェクトリーダー：幸田 裕介・山崎 則子

メンバー：杉山 浩子／佐藤 菜穂／太田 小百合／大聖寺 吉美

1. はじめに

2017年4月に若年性認知症カフェ「そらとうみとたいようと」を始めました！

そして2019年9月には節目である第10回を迎え、これまでにカフェ及び番外編の開催や啓発活動などを含めると、約500名を超える方々に参加して頂いております。回を重ねる毎に「若年性認知症」及び「認知症」で困っている現状があるにもかかわらず、地域における「認知症の正しい理解や理解度」は予想した以上に低い状況が分かってきました。これらを鑑み、まずは「若年性認知症／認知症」の啓発活動が大切だと痛感させられております。然しながら家族、そして身近な人が「若年性認知症／認知症」と診断された時に初めてそのワードを耳にし、そして情報収集を始めるといったケースは決して珍しいことではありません。そこで老若男女を問わず、全ての方々にこのワードを知って頂くという認知症に対する“Borderless”を求め、最善の方法を考えました。

2 事例や取り組みの紹介

効率的に知って頂く＝啓発活動として3つの活動方針を掲げました。

1. 「若年性認知症／認知症」を知らない地域の方々に向けた活動 ⇒ 住みやすい地域作り
2. 多額の予算をかけない活動 ⇒ ボランティア組織なのでお金がない
3. ご本人／ご家族そして支援者が楽しみながら出来る活動 ⇒ 楽しくないと意味がない

そして1つの方法にたどり着きました、それは認知症のご本人とご家族、そして支援者がスポーツを通じて広く地域の方々に知って頂く機会を得る、拠点地域開催のマラソン大会での活動です。私たちの活動地域に神奈川県唯一の村「清川村」があり、「清川やまびこマラソン大会」が毎年盛大に開催されています。児童や生徒を含め約900名のランナーが健脚を競い、応援者を含めると遊に1,000名を超える人々が会場に集う、歴史あるマラソン大会での啓発活動に向け取り組みを始めました。プロジェクトの想いを告げた結果、「そらとうみとたいようと」発足1年後の昨年2018年11月4日、清川村の後援を頂き第31回清川やまびこマラソン大会において「若年性認知症／認知症啓発活動」を行う事ができました。

活動内容は啓発ブースでの情報提供、カフェの報告、そして5kmの部にはご本人1名を含めた9名が認知症啓発カラーであるオレンジ色のTシャツを着用し、全員無事完走する事ができました。揃いのオレンジ色Tシャツで走る事で、より強固な信頼関係の構築とインパクト大の観点から、沿道の応援を多数得ることが出来ました。この結果を踏まえ、最大の目的である「若年性認知症／認知症」というワードを広く知って頂く場になったと実感できました。

そして継続こそ力なり。更に2019年11月3日に開催される第32回清川やまびこマラソン大会での啓発活動を行うべく、2019年6月からの始動に至っています。

まずは、昨年の実績を踏まえ「清川村」の後援を頂き啓発活動の扉は開かれました。続いては活動の内容検討.....昨年以上のインパクトそして成果を求め.....あれこれ考えた結果.....オレンジTシャツ着用ランナーを増やす「コードネーム：オレンジインパクト」に決定！次なる関門はどうやって増やすかです。普通に参加ランナーに対して「オレンジ色のTシャツ」を着て走りましょうと告知を行っても、今の状態では届かないと容易に判断できます。それならば「そらとうみとたいようと」オリジナルのオレンジTシャツを作製し、私たちの認知症啓発活動に趣旨賛同頂けるランナーの方々に無償配布し着用して頂くという作戦です。更なる関門はTシャツ作製資金の調達でした。私たちの「そらとうみとたいようと」の会プロジェクトはボランティア団体で有り、自由に使用できる予算など皆無。また.....あれこれ考え.....そして地域の皆さまから協賛金を募ることにたどり着きました。Tシャツ作製目標枚数を150枚とし、その作製予算を150,000円と設定しました。1人でも多くの方にご賛同いただき「認知症」になっても今まで通りの生活ができる地域作りの実現と、地域の方々、企業・商店の方々、そして児童や生徒をはじめ多くのランナーや観客が一丸となり地域が活性化するような楽しい啓発活動にしたいと考えました。この活動を知って頂くためにチラシによる草の根活動、そして「タウンニュース 厚木・愛川・清川版」への掲載協力により、広く多方面への周知を行う事ができました。お蔭様で20を超える地域の企業や医療機関及び住民（個人）の方々からご協賛を頂き、目標であった150枚のTシャツ作製が可能となりました。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

3 考察

地域との連携は認知症になっても住みやすい地域づくりにとって不可欠です。多くの老若男女が集まり広く啓発が出来る場所として私たちは「マラソン大会」を選択しました。また、無償配布したTシャツにもこだわり、大会会場だけでなく普段から「着たいTシャツ」を意識しデザイン性にも力を入れました。背面には協賛・協力頂いた方々の名前をプリントさせて頂いております。それは着用頻度が増えるほどTシャツの話題性が広まり、結果として「若年性認知症／認知症」の啓発及び周知の向上と、それらをサポートする協賛・協力者のイメージUPが図られることにより「住みやすい豊かな地域」が構築されたと考えた結果です。更には来年度の協賛企業の増加や、作製枚数の増量も見込まれ、この活動により多岐にわたる地域での繋がりに発展する事を期待しております。

4 おわりに

Borderless&Priceless！！私たちの活動に決められたルールは存在しません。なぜならば、定められた枠の中にある活動では決して無く、ましてや利益追求を目指す活動団体ではないからです。必要だと感じたことを共感した仲間と生活拠点地域で無理なく行うこと、それこそが認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活するために不可欠であると感じるからです。私たちの活動と「マラソン」とは異なる点の一つだけあります。それはゴールがないことです。終着点であるゴールは目指しますが、ゴールが再びスタート地点になる「Made by そらとうみとたいようと」の気持ちで精一杯楽しみながら活動を行っています。